

## 日本労働年鑑 1951年版(第23集)

The Labour Year Book of Japan 1951

## 第二部 労働運動

## 第二編 労働組合運動

## 第七章 主要な労働組合の現状

## 全日本金属産業労働組合協議会

全日本金属産業労働組合協議会(大金属)

- ◇結成 一九四八年一二月一日
- ◇所在地 東京都港区芝新橋七ノ一二
- ◇組織

- 全日本金属労働組合
- 全日本造船労働組合
- 全日本自動車産業労働組合
- 全日本電線工業労働組合
- 日本製鉄八幡労働組合

以上の他地方大金属の組織を併せ四九年一二月の第三回臨時大会には八九九分会 三二〇、四五三名と報告された。

## ◇役員

議長 和田次郎(全金属)

副議長 大宮宗三郎(全造船)

◇機関紙 「大金属新聞」B4版二ページ五日刊

## ◇綱領

- 一、われわれは全日本の金属産業労働者を結集し、単一の金属労働組合続成のために闘う
- 一、われわれは労働者の基本的人権擁護のために闘う
- 一、われわれは完全雇よう実現のために闘う
- 一、われわれは産業民主化と労働者、農漁民、勤労市民の生活を豊かにする生産復興のために闘う
- 一、われわれは教育制度の民主化と働く者の文化を守るために闘う
- 一、われわれは金属労働者の戦線統一を通じて全日本の労働戦線統一のために闘う
- 一、われわれは働く農漁民、勤労市民、民主的諸団体と提携し民主戦線結成のために闘う
- 一、われわれは租国を植民地化する外資導入に反対し民族の完全独立のために闘う
- 一、われわれは全世界の労働者と提携し戦争の根源の破砕と世界平和確立のために闘う

◇一九四七年末に金属労働戦線の統一を目指して設立された大金属共同闘争委員会は発展して四八年一二月一〇日全日本金属産業労働組合協議会(大金属)が結成された。大金属は当初から、生活をまもる、基本的権利をまもる、産業を崩れからまもる等の運動方針のもとに活発に運動を展開した。四九年度企業整備、脱退等で組合員は若干減少したが労働戦線に於ける比重は全官公系組合が争議権を失った結果著しく比重を増している。

---

■ ←前のページ 日本労働年鑑 1951年版(第23集)【目次】 次のページ→ ■  
日本労働年鑑【総合案内】

---

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)

---